

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃癌術後合併症および長期予後予測因子としての D dimer の意義
	研究目的	体の中に癌があると血液が固まりやすくなると言われています（凝固系の亢進）。この凝固系の亢進は癌の増殖や転移などにも関わっていると考えられています。また、手術などによる体への大きな侵襲が凝固系の亢進を引き起こし、それが癌の転移を促進し、結果的に予後を悪化させる可能性も報告されています。血液検査の D dime 値は、血液の凝固系活性のマーカーとして広く汎用されています。この研究では、胃癌術後早期の D dimer 値と術後合併症、再発、生存との関係を検討することで、胃切除後の血液凝固系活性の変化が短期・長期予後に影響するかを明らかにします。
	研究対象者	2009年7月～2017年12月の期間に当院で根治的胃切除術を受けた方
	研究期間	西暦 2018年6月29日～西暦 2019年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	大島 貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし